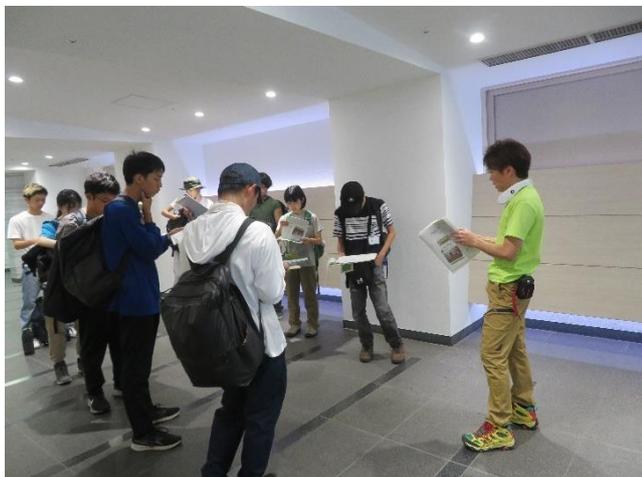


## 環境保全のボランティア体験講座 2025 第4回講座レポート

第4回目の講座は8月3日(日)に大阪府貝塚市と岸和田市にまたがる和泉葛城山ブナ林での開催です。この日の受講生は10名。環境事業協会本社のビルの1階で集合して2つに班分けをした後、バスに乗り込みました。



約2時間足らずで、予定より少し早めに和泉葛城山山頂の駐車場に到着すると、今回の講座でお世話になります和泉葛城山ブナ愛樹クラブの方々にはちょうど出迎えて頂きました。

また、この日は堺市の某中学校の生徒さんが1名、ブナ林を見学・活動にも参加されたいとのことで、我々と合同で回ることになりました。ブナ愛樹クラブ代表の土井雄一さんにまずは和泉葛城山ブナ林の概略をご説明頂きました。途中、右の写真のように日が射してきたので陰に移動、連日の猛暑で標高800mの地点でもかなり暑さを感じたので早速熱中症対策をしての進行となりました。



その後A班は早速、駐車場横に人為的に植えられたブナを教材に観察会が始まりました。葉の葉脈の出方など、ブナの特徴を土井さんはご説明されました。



こちらはB班の様子です。

ご担当いただいたのは、和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会の田中正視先生です。

B班も基本的にはコースはA班と同じで、少しの時間差でポイントを回ります。



さて、駐車場すぐ横の和泉葛城山の山頂には大阪府側に高麗(たかおがみ)神社(葛城神社)と和歌山県側の龍王神社が隣接して立地しており、左下の写真はその山頂に向かう様子です。

山頂ではミズメという木の説明をしていただきました。

山桜と似ていることから間違えて植えられたとの話がありますが、この木は枝を折って匂いを嗅ぐと、サロンパスのような独特の香り(成分:サロメチール)がします。 **ミズメ**



下の写真は、和泉葛城山ブナ林が天然記念物指定されて100周年記念の時にブナ愛樹クラブが植栽したブナを説明している様子です。  
右の写真は、先日落ちたという雷によって真っ二つに裂けたスギの様子です。



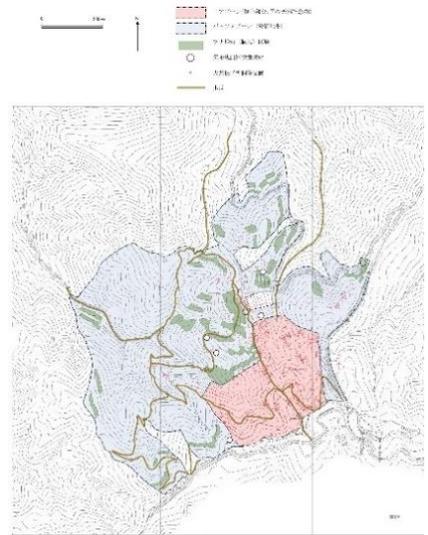
設置看板などを使ったりしながら、神社の歴史のお話がありました。  
受講生は静かに聞き入っていました。この土地は五箇荘とって、5つの地区が土地の所有者となっており、協働で地域を守ってきました。



全てのブナの木の前には、番号が振られた赤/白の標識が刺さっていますが、和泉葛城山にはブナとよく似たイヌブナが混在して自生しており、下の写真はそれを説明しているところです。



さて、長い階段を下り、塔原道の観察デッキを目指します。下の真ん中の写真は下ってきた階段を見上げているところ。階段を下りるのはいいのですが、登る気はしないですね…。周辺地区一帯はコアゾーンと呼ばれる天然記念物の保護区域(右の地図の赤色の部分)となっています。



何やら見慣れないカミキリムシが飛来してきました。右の写真はオオヨツスジハナカミキリ(メス)です。陽当たりの良いヨウブやノリウツギの花によくやって来ます。針葉樹の材に産卵する種類です。



天然記念物のエリアは、樹林内に立ち入りできないように木柵が張り巡らされています。受講生たちは講師のあとについて林道を歩き進めました(写真左下)。



左の写真は木部が見えづらくなっていますが、数年前に伐採された樹齢300年を超えるブナの説明をしている様子です。

下の写真が塔原道の観察デッキとなります。

真ん中の写真は大きなブナの大木の下に落下している種子を探している様子です。



写真で見ると迫力がなかなか伝わりませんが、かなり大きなブナの木になります。

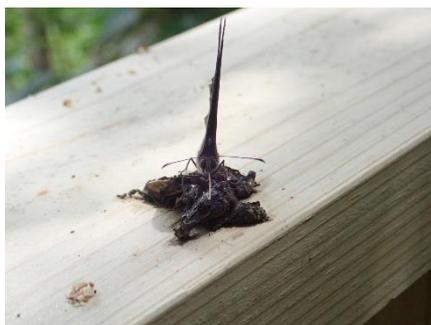
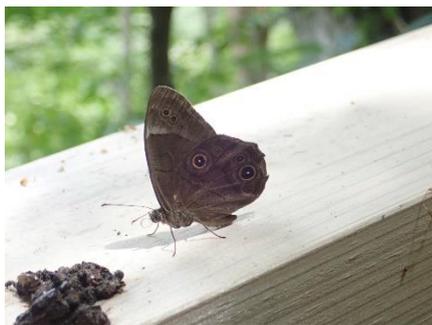


デッキを下りてコースを進みます。

左下の写真は部分的に表皮の剥がれ落ちたスギの大木を眺める受講生。

右下の写真の中央に見えるのが、よく下からのアングルで雨上がりの樹幹流が撮影されるブナ。



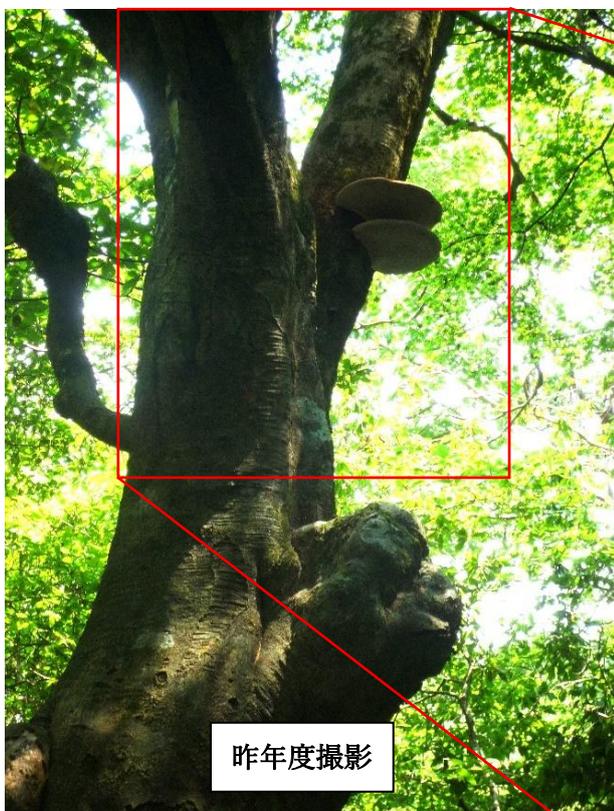


左の写真は獣糞で吸汁しているクロヒカゲ。  
コアゾーン立ち入りを制限する木柵を利用して動物たちが移動をし、その時にところどころに糞をするようですが、それに昆虫たちが集まることも多いようです。



通称ブナ街道を進む様子。  
ブナの巨木がどんどん枯れており、その割には稚樹が育っていないという現実があります。

下の写真はブナに生えるオオミノコフキタケか、コフキサルノコシカケと思われるキノコ。  
昨年の講座での撮影時と似たアングルで撮影できたので比較したところ、1年間でだいぶ腐朽が進んでいることが判明しました。



昨年度撮影



今年度撮影

牛滝道の観察デッキに到着すると、ここにも巨大なブナが立っており、受講生の目を惹きます。



ぐるっと木道を移動して、山頂の休憩所に行く途中、左の写真のようにカミキリムシの産卵痕を発見しました。  
恐らくシロスジカミキリです。

この日はオフロードバイクが何台も通過しましたが、その道路の脇で観察会が続きます。



左下の写真中央はキツリフネの花。  
主に低山から山地にかけて分布し、水辺などのやや湿った薄暗い場所に自生しています。  
右下の写真からも、周辺は薄暗い側溝の近くであるので自生できているということが納得できますね。



下の写真はツチアケビという日本固有種のラン科植物です。  
 人目を惹く姿をしていますが化学薬品のような強烈な異臭と苦味もあり、食用にはなりません。



左の写真は、昼休憩の場所に向かうために車道に出た時にケンポナシという樹木の紹介をしている様子です。  
 抽出物はチューイングガムなどに利用されるそうです。  
 これらの写真のように、ガードレールのあるような車道の脇に観察ポイントが沢山あることから、この地の自然環境が良好であることが窺えます。  
 このあと、昼休憩をすべく、はじめにバスを降りた時の集合地の方へとそれぞれの班は戻っていき、東屋の下でお昼休憩に入りました。



ここで、山頂にあるトイレ前で発見した生きものを少し紹介します。  
 左の写真はエビガラスズメというスズメガの仲間、開帳すると80～105 mmと大型になります。  
 写真では腹部が見えませんが、翅を開くとエビのような模様をしていて、翅の模様には多様性があるようです。



右の写真はスジクワガタのオス。  
 少し標高の高い山に生息しています。  
 コクワガタに少し似ていますが、前翅(上翅)に筋があり、大顎の内歯はコクワガタに比べ少し先寄りに出ています。

さて、午後からのメインとなるのは、木の間伐体験です。  
 その会場となる和泉葛城山ブナ愛樹クラブが使用している作業小屋の辺りに移動する途中、気象観測器の説明を行いました。  
 弊社職員の岡本は、この気象観測器を管理している大阪みどりの  
 トラスト協会の元職員であり、当時このブナ林の担当者であったことから、この気象観測機器がなぜ取り付けられているのか、  
 どういったデータを計測しているのかなどをお話させて頂きました。



因みにこの場所(左の写真)では、風速・風向・  
 雨量・気温・日照時間を計測しています。現在の  
 情報だけで評価をするのではなく、データを  
 蓄積させていく事で傾向を読み取るといった長  
 期的な視点での狙いがありますが、近年設置に  
 ついて再検討されているようです。

右の写真は、その後の移動中に道路で見かけた  
 タカチホヘビの死骸。  
 森林等に生息し、甲虫類の幼虫やミミズ等を主  
 食としています。  
 雨天時には昼間でも地表に現れ活動すること  
 もあるが基本的には夜行性で、昼間は落ち葉  
 や倒木の下等に潜り休んでいるので、なかな  
 か遭遇機会の少ない種類です。



下の写真は受講生が捕まえたニホントカゲ。  
 なかなか捕まえるのは難しい筈ですが、あっさり捕まえていました。  
 受講生の皆さんは興味津々で撮影大会が始まりました。



作業小屋のある敷地に辿り着き、ブナ愛樹クラブの方々全員にお出迎えいただきました。ここからは受講生はノコギリや軍手の装備品を身に付け、二手に分かれての活動となります。



左下の写真の前に立つ3名中、左の土井さんに軽く概要をお話いただいた後、ここから中心となって動いてくださったのは、右が A 班担当吉崎さん、真ん中が B 班担当の中室さんです。右下の写真のように作業用林道を移動して抜けると...



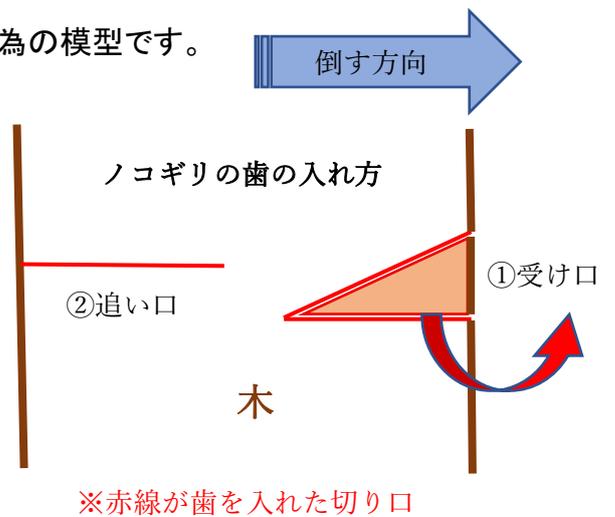
こちらには A 班が伐倒するヒノキがありました。



講座の進行がしやすいように、ブナ愛樹クラブの皆さんにより事前に切り倒す木にロープをかけておいて頂けたようで、このロープは倒したい方向に木を引っ張り安全に倒す為のものです。事前準備ありがとうございます！  
右下の写真には下で伐倒する B 班の木にかけられたロープも見られました。

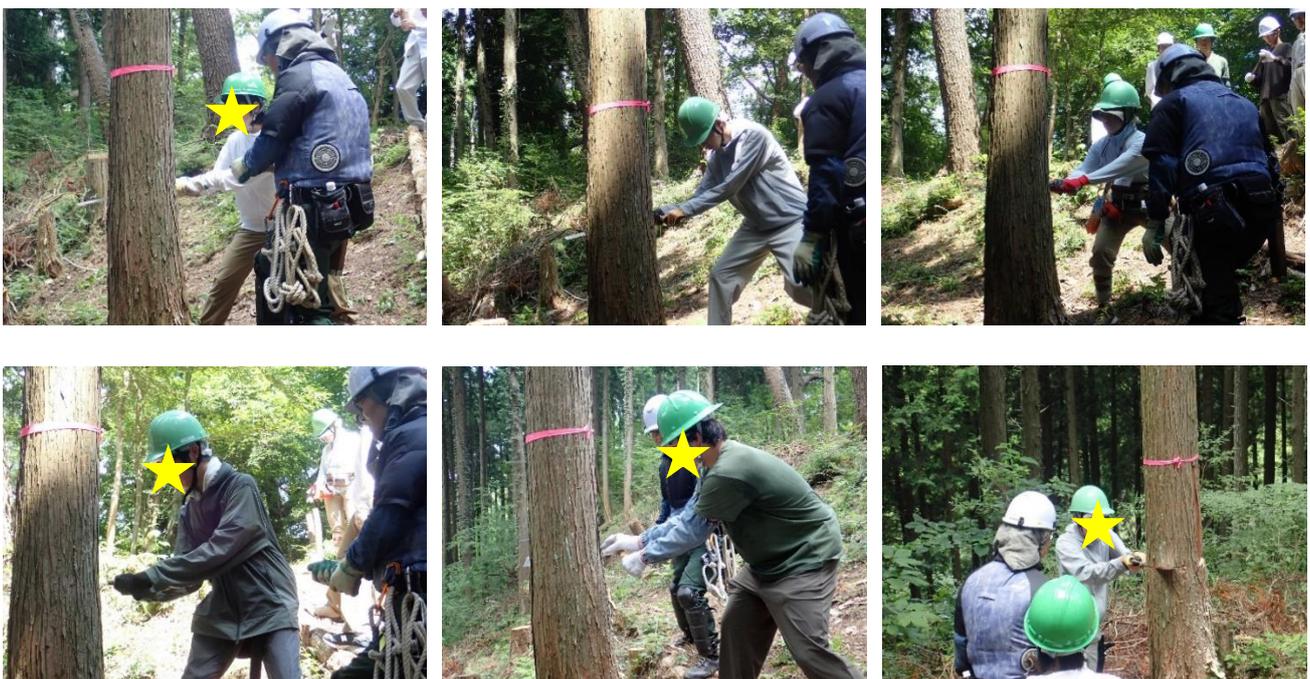


A班は早速、吉崎さんの説明が始まりました。  
 初心者である受講生に丁寧に教えて下さりました。  
 右手に持っているのは木への鋸歯の入れ方を教える為の模型です。



左の写真は、右端の吉崎さんの話を真剣に聞く受講生の様子です。

下の写真のように早速木にノコギリを当てていきます。  
 重力の方向に対し、平行にノコギリを入れていくのがポイントですが、これがなかなか難しいようです。  
 ノコギリは引いたときに切れるとのこと教わり、実行していました。





受け口に加え、追い口もある程度切れたところでロープで木を引くことに。  
丸印の所にある滑車により、引く方向と違う方向に力が加わり、安全に倒せます。

結果、下の写真のようにかかり木になってしまいましたが、想定の範囲内とのことです。  
吉崎さんが「かけや」という所謂、木のハンマーを使い、切断面付近を横に打ち込んだ衝撃で切断面を横にずらしていきました。  
下部と分離した反動で見事引っ掛かりは解消し、木は地面に落下、職人の技を受講生は見る事ができました。



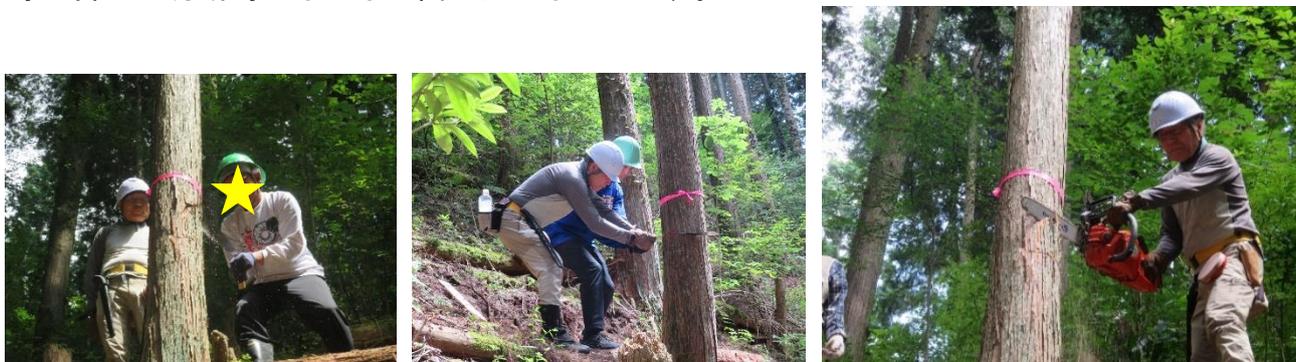
伐倒後の切り株の断面図を見て学習します。  
倒れた時の跳ね上がりを防ぐため、あえて中心部は切断しないよう、うまく切り進めていました。  
断面からはヒノキのいい匂いがしています。  
有効成分ヒノキオチールには抗菌作用や防ダニ効果があり、香りもいいことからヒノキは様々な製品に使われています。



そして同じ頃、B 班のご担当中室さんによるご指導の下、こちらの班も作業を進めていました。



こちらの班では途中から文明の利器、チェーンソーを使い時間短縮を図ります。一般的なノコギリは木の繊維に対して真横に切断するときにはうまく切れるのですが、受け口を作る時の斜めの切断時はなかなか歯が進まないのです。



下の写真は木にかけたロープを使って木を倒すところです！  
安全管理を確実に、右下の写真のように無事倒すことに成功しました。



下の写真はその後枝払いをしている様子ですが、この作業では不要な枝葉を土に面で当たるような大きさにそれぞれ切断し廃棄することで、早く微生物に分解されやすくします。



その作業時も安全管理は怠りません。

伐倒した木は斜面に倒れているため、地面に突っかえている枝葉を切断時に地面に対しての抵抗値が無くなり、丸太が転がり落ちてこないように近くの切り株にロープで繋いでおきます。安全管理を怠ると、伐木により全国では毎年何十人もの死者が出ているそうなので、どんな時も注意しなくてはなりません。



そして伐倒した木は、枝払い以降はほぼそのままに（後程ブナ愛樹クラブの方々に処理頂けるようです）、次のアクティビティ、丸太切りのために作業小屋前の広場に皆集まりました。

下の写真のように、ここに設置してある台座（馬）も、ブナ愛樹クラブの皆さんが設置、切断用の丸太も事前にご準備頂きました。

説明を聞いて、早速丸太切りの開始です。

ご覧のように一人が切っている間は他の人は馬に乗って、動かないよう押さえることに徹します☆





切断したヒノキの表皮を剥いで、ツルツルの面を出すやり方を教わったので、実践する受講生。表皮を一部剥がしたら、ヘラを差し込んで一気に剥がしていきます。伐採後の表皮直下は水分が多く、剥がしやすくなっています。

写真が無いのですが、ノギリなどの道具は使い終わったら手入れを行いました。水分を取って油をさす作業をすることで錆びさせず、道具を長持ちさせることができます。



ここで、何やら大きなノコギリの登場です。

「二人引き鋸」といって、二人で協力してタイミングよく押したり引いたりすることで木を切断していく近年では滅多に見かけることのないノコギリです。

受講生に貴重な経験をして貰うためにご準備いただきました。

これがなかなか取り扱いが難しく、一応左右に動かせば鋸刃の重量のみで切れていくのですが、少しでも傾けたり力を込めたりすると引っかかって切れなかったりします。

吉崎さんによる道具の紹介とデモンストレーションの後、受講生が経験しました。



何度も引っかかって馬が揺れました。

馬を押さえるのも二人がかりです。

それでもなんとか作業を経験した皆さんは丸太を切断することに成功しました。





ここで皆さんにはプレゼントの配布です。  
この日の為にヒノキの工芸品のプレゼントを吉崎さんによってご準備頂けました。  
昨年度の講座で受講生により伐倒されたヒノキを使った、「スマホ立て」になります。  
それには、皆さんに木の利用について考えてもらうためのメッセージがついていました。



最後に受講生にアンケートを書いてもらって恒例の「ふり返り」です。  
ブナ愛樹クラブの皆さんにも輪の中に入れてもらい、受講生の感想を共有されました。





3名に発表頂いて、皆さんの気持ちの共有とおさらいを行いました。  
大学の座学での授業だけではなく、実際に貴重な経験ができたとのことで、やはり体験することでしか感じられない事があり、有意義な時間が過ごせたようでした。



参加者全員での集合写真です。  
このあと、お世話になったブナ愛樹クラブの皆さんにお礼を言ってバスに乗り込みました。



因みに作業小屋の反対側にはテラスがあり、この日は下の写真のような光景が広がっていました。標高 800mを超える位置なので、非常に景色が良いです。

少しかすんで写真では見にくいですが、関西国際空港が一望できます。



バスに乗り込み約 2 時間後に降車場に到着した一行は、無事解散しました。アンケートでは、受講生から参加満足度などの高い評価をたくさん頂けました。記述内容例としては以下のようなものがありました。

**・ブナの手入れをしている人々や林業に携わっている人々の時間をかけた労働・管理の努力から、その地域の自然が守られて豊かな生態系を作っているということを実感して、また現場の人間が自然と向き合って強制する姿を見て保全活動に興味が深まりました！これからもボランティアなど様々な形で保全活動に携わっていきたいです！**

**・実際の林業の現場の作業を体験することができ良かったです。またボランティアで参加してみたいと思います！さらに、歴史を語っていただいたことが印象に残り、勉強になりました。**

**・実際に1本の木を切り倒してみても、1本の材木に対する労力とその工夫を自分の肌で感じられた。「林業が一番労働死が多い」というお話を聞いたが、木の倒す向きや、のこぎりの歯の角度など、考えることが多く、たしかに納得した。大学の授業で学んだ事柄について、実際に林業に携わっている皆さんの口から聞く事ができ、よい学びになった。**

**・実際にブナ林を保全している方々や管理に携わっている方々の貴重なお話を伺って、体験まで丁寧な指導を元にさせていただいて、ニュースや文章では分からない保全活動の実態や携わる人々の気持ち、これからの活動に思うことを直接学ばせてもらったという貴重な経験をさせていただいたところです！本当にこのような機会を頂けてありがたく思っております！**

といった回答が寄せられ、今後のボランティア活動に期待の持てる個人的な参加意欲がみられたり、普段経験できない自然環境の保全にかかる苦勞について、身をもって体験でき、環境についていつも以上に深く考えることのできた講座となりました。

地球温暖化の影響で標高 800m を越えるこの和泉葛城山でも、積雪の機会が非常に少なくなってきました。積もっても数日ですぐに解けてしまいます。ブナ林やそこに棲む生きものたちの今後に非常に大きく影響しているため、人類一人ひとりの意識が今、非常に重要になっています。